

# 特集

全国に先駆け「ICT」を活用し取組む子育て支援！

## ただみ健やか発育・発達支援事業「さんさんキッズプロジェクト」

日本では少子化による人口減少が社会問題となっており、只見町もこの問題に直面しています。これまで只見町が実施してまいりました子育て支援は、医療費や保育料などの無償化や低減といった「経済支援」が主となっていました。その様な中、新たな支援策として町内3つの保育所を拠点に、独自の幼児期運動プログラム（運動あそびプログラム）を取り入れ、保育サービスの充実、幼児期の体力・運動能力の向上による心身両面の発育・発達を促しながら、町ぐるみで子育て支援体制を確立することを目的とした取り組みを始めました。また、本事業の中の運動遊びプログラムに「ICT」を活用する事業は、日本全国の自治体の中でも只見町が先駆けて取り組んでいる事業ですので、今回はこの事業について詳しく紹介いたします。



▲(写真/朝日保育所さくら組)

### —子どもたちの—

#### —からだに危ない—

現代の子どもたちは、ライフスタイルの変化により体を動かす機会が減少し、走・跳・投といった基礎的な運動能力と筋力や柔軟性、敏捷性などが、1985年以降をピークに著しく低下の傾向にあります。体力・運動能力の低下は小学校低学年をはじめ、さらには乳幼児期から始まっており、体力の「低年齢化」という新たな問題が顕在化してきています。運動能力が低下した原因はいくつか考えられますが、投げることがうまくできない、幅跳びの動きが身につけていないといった基本的動作の未習得や未発達が発

げられます。これらは、子どもたちが日常、外遊びをするなどの身体活動の機会が全体的に減ってきていることによる「運動量」の減少が主な原因の1つと考えられています。さらに転びやすくなることでの怪我の増加や体重が増加するなどの生活習慣病が子どもにも広がりを見せております。この、子どもの体や心の問題について研究し、当事業の全体監修をする山梨大学大学院の中村和彦教授は、「今の子どもたちの体は危ない状況にある」と警鐘を鳴らしています。

#### —全体監修・アドバイザーに—

山梨大学 中村教授  
NHK教育番組「からだであそ



◀《全体監修者》山梨大学 教育学  
部長・大学院教育学研究科長  
中村和彦教授



▲中村教授が提唱する「基本的動作36の動き」を取り入れたプログラムを実施していきます



幼少期は「ゴールデンエイジ」と呼ばれ、人間にとって非常に重要な運動能力や認知的な能力・情緒・社会性といった能力を身につけるのに最も適した時期と言われています。この時期に日常生活の中で「運動あそび」を取り入れることで、バランスのよい発達を促すことができるといわれ

「ゴールデンエイジから始める子どものからだづくり」

経験し、バランスよく身につけることが子どもの成長に望ましいとされています。当事業では監修やアドバイザーを中村教授が務め、36の動きを保育所の中で「運動あそび」として取り入れて実施しています。

「ぼ」や「おかあさんといっしょ」の体操コーナーなどの監修を務め、子どもの体や心の問題を主に研究し、特に「あそび」の重要性に関する調査・研究では第一人者である、山梨大学教育学部長・大学院教育学研究科長の中村和彦教授は、「子どもの体力向上や健康増進の必要性を唱え、「36の基本動作」を提唱しています。人間の基本的な動きは36種類に分類され、幼少期にできるだけたくさん

このような背景を受け只見町では、子どもの健やかな発達と社会全体で支援する環境の整備を目的に、平成27年度に策定した「只見町子ども・子育て支援事業計画」や「只見町総合戦略」、「只見町子育て支援・少子化対策の推進に関する条例」の趣旨を踏まえ、本事業に取り組むもので

国は、「子ども・子育てビジョン」や「子ども・子育て関連3法」の成立を背景に、自治体単位においても、より一層地域における子ども・子育て支援策の充実や具体的推進を求めています。

国や町における子ども・子育て支援施策の動向

36の基本の動きにより「身体運動の発達」を促すとともに、「考えることや工夫することを通しての「認知的な発達」、仲間とのコミュニケーションを通じての「情緒性の発達」を促すこととなり、結果として子どもたちの「生きる力」が育まれます。当事業では、実態に合わせた「運動あそびプログラム」を実施し、子どもたちの生きる力づくりを支援していきます。





▲ICTを活用しておでこで体温をはかる児童  
(結果は個人データとして蓄積されます)



▲保護者を対象にした中村教授の講演会



▲保育関係者の研修会は、OJTなどを含め多くの研修を実施しています



▲「36の基本動作」を取り入れた運動を年齢に応じて30分～1時間程度実施します



▲遊びながら多様な動きが経験できる「運動遊びプログラム」

## — 全国モデルとなる

### 発育・発達支援

#### プログラムの導入

本事業は、町内の保育所を拠点とし、幼児期の運動あそびを通したからだづくりのプログラムを開発するとともに、保育士の資質向上を含めた、提供環境の整備を推進していきます。

これにより、保育サービスの充実化を図り、幼児の体力・運動能力を伸ばしながら、心身両面の発育・発達を支援する体制を構築するために、次のような事業に取り組んでいます。

#### ①全国初の取組み！

ICTを活用した子どもの健康状態及び活動状況の可視化システム

全国初の取組みとして、「ICT」を活用して、子どもの成長などを可視化することが可能な機器を利用し、子どもたちの健康状態・運動能力・日常の活動量・睡眠状態などを可視化、モニタリングできる仕組みを構築していきます。

昨年度行ったベース調査では、一般的な目標とされる1日の活動量よりも低い傾向がみられました。また生活習慣では、就寝時間において遅い傾向が見受けられました。これらのデータを経年的に蓄積・

分析しながら子どもたちの現状にあった運動あそびプログラムを取り入れ、発育・発達支援に取り組んでいきます。

また、子どもたちの健康実態等に関する各種情報は、今後保護者の方々とも共有できる仕組みを構築していく予定です。

#### ②「運動あそびプログラム」の導入

「運動あそびプログラム」は、子どもたちの実情に応じたプログラムの開発を行いながら、多様な動きが経験できる遊びを取り入れています。

昨年度プログラムを実施した結果、①25メートル走②立幅跳び③ボール投げ④体支持持続時間⑤両足連続跳び越し⑥捕球の6項目で、プログラムの導入後は運動能力の向上がみられました。

## 全体イメージ



▲機器を腰に装着して測定します

- ②実情に応じた運動遊びプログラムの開発
- ③多様な動きを経験できる遊びの環境整備



- ①只見町の子どもたちの実態を  
継続的に把握できる基盤構築
- ※事前調査による子どもたちの健康状態、生活習慣、  
体力、子育て環境などの現状把握・課題抽出



## 可視化

- ④保護者への情報発信  
・講演会 ・機関紙 ・ICT利活用

- ⑤保育者・子どもに関わる方々のスキルアップを支援するための教育研修体制



### 《Voice》

只見保育所  
主任  
目黒 紀代美 先生

幼児期に身につけてほしい「36の基本動作」を取り入れ、様々な経験をしていく中で「体を動かすことが楽しい」という気持ちを持てるように、子どもたちの自発的な力を伸ばし、発育・発達支援につなげていけるよう取組んでいきたいです。



### 《Voice》

朝日保育所  
主任  
目黒 径子 先生

子どもたちを見てみると、いつも動いており運動量が多いと感じていましたが、この事業を通して運動量を数値化してみると、まだまだ足りていないことが分かりました。廊下を歩くといった普段の生活にまで動きを取り入れ運動量をUPしていきたいです。



### 《Voice》

明和保育所  
主任  
藤田 志津 先生

運動が苦手な子どもでもやりたいと思えるよう、「できた」という経験を増やしたい。子どもが主導で考えるよう、先生方も「与える」ことから「見守る」ことへ変わったと感じます。運動だけでなく食育面でも保護者と連携し、発育発達を支援していきたいです。

③保護者・保育関係者向けの講演会・研修会の開催  
保護者や保育関係者など子どもに関わる方々のスキルアップを支援するために実践型の教育研修を実施しています。

昨年度行われた「からだあそび講座」に親子で参加した保護者の方々からは、「遊びの大切さがわかった。身体を動かす楽しさを全ての子どもに味わって欲しい。」「子どもと遊べたという充実感があった。」「子どもとどのよう遊んだら良いのかわからないのが正直なところだったが、身近なものを工夫して運動あそびが出来ることを教えてもらえて良かった。」「親子でおもいっこり遊べる機会や場をもっと作ってほしい。」「といった意見が聞かれました。

また、保育関係者からは「子どもの探求心や欲求を受け入れることで、自発的な遊びが生まれ、満足そうな表情や言葉が聞かれた。」「職員間で保育のありかた、子どもの状況など話し合う機会が今までよ

りも増えた。」といった意見が聞かれ、様々な良い変化が見え始めています。

―次世代を担う子どもたちのためにできることを―

このように只見町では、子どもたちの健やかな発育・発達のために、ICTを活用して子どもたちの健康状態や活動状況の可視化、運動あそびプログラムの導入、そして保護者や保育関係者向けの講演会・研修会の実施により、子どもから保護者・保育関係者までを効果的に支援できる体制を構築していきます。

これらの取組みにより、保育サービスの充実を図るとともに、家庭や地域が一体となって町ぐるみで子育て支援に取り組む、ふるさとの未来を託せる子どもたちが育つ環境づくりを進めてまいります。

### 問合せ先

総合政策課 地域振興係  
☎0241(82)5220